

被災から3年目を迎えて

被災地の生協から全国の皆さんへ

インタビュー

コープふくしま専務理事 野中俊吉さん
聞き手・コープおおいた理事 松尾孝子さん

「被災地の現状」「復興に必要とされていること」について、コープふくしまの野中俊吉専務理事に伺いました。インタビューは、福島県への応援活動を行なう全国の生協の仲間を代表して、コープおおいた組合員理事の松尾孝子さんにお話ししました。

——現在、このように生協の理事として支援に関われることはありますか？
とだと思っています。定期的にコープおおいたの代表が福島を訪れていますが、がれき処理や住宅の問題など被災直後とあまり変わっていない印象があり、まだまだ復興には時間がかかりそうで心配です。3年目を迎えた現在はどうのような状況なのでしょうか？



はい。2011年度から食事に含まれる放射性物質の量の測定と、12年秋からはホールボディカウンターを

やはり福島県は東京電力福島第一原子力発電所事故の問題が大きいですね。立ち入り禁止区域には入りたくても入れないので、2年たっても「手を付けられない」というのが現状です。自分の家は残っていて、見た目は何も変わっていないのに、入ることができないのです。掃除も何もできませんから、どんどん傷んでいきます。さらに津波の犠牲になったご家族を捜すこともできません。これも本当につらいことです。

——コープふくしまさんは除染活動や放射線量測定などさまざまな取り組みをされていますね。
はい。2011年度から食事に含まれる放射性物質の量の測定と、12年秋からはホールボディカウンターを

それは組合員さんにとって頼もしいですね。普段の生活が安全だと分かれば安心します。福島県の県産品の普及拡大にも力を入れていらっしゃいますね。
はい。生協として福島県産品を応援していることで、行政や地域社会からも信頼されています。コープおおいたさんでも多くの福島産品を扱っていただいているので、本当に感謝しています。ぜひ今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

——コープおおいたでは、福島の子どもたちがクリスマスツリーを作るための松ぼっくりを拾えないと聞いて、松ぼっくりをこの二年間お送りしていますが、早く「もう要らないよ」という言葉が聞けるといいなと思います。これ

——それは組合員さんにとって頼もしいですね。普段の生活が安全だと分かれば安心します。福島県の県産品の普及拡大にも力を入れていらっしゃいますね。
はい。生協として福島県産品を応援していることで、行政や地域社会からも信頼されています。コープおおいたさんでも多くの福島産品を扱っていただいているので、本当に感謝しています。ぜひ今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

からもコープふくしまさんとさまざまな交流を続け、おおいたの組合員さんたちへの震災関連の情報提供も続けてまいります。福島県産品の販売や放射線の学習も重視していきたいですね。こうしていろいろな広がりの輪ができることは、楽しみでもあります。
ありがとうございます。お茶会に使うお菓子を送ってください。お茶会にお茶会の参加者、スタッフを元気づけています。今後も、このような日常的なつながりをもっていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

取材日：2013年3月25日

(文 荒川和巳)

コープおおいた復興支援DATA

東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所事故直後から福島の地へ支援に入った。以後、生協組織として継続的に福島を支援することを決定し、窓を開けられない小学校に扇風機を送るなど、状況に合わせた支援活動を展開。組合員同士の交流会や福島の現状についての学習会なども開催している。

※ インタビュー全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO-OPアクション情報」パネルをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連 復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。